



日本共産党・前県会議員

2022年3月30日

加藤なを子活動レポート



県政へのかけ橋

発行：日本共産党・加藤なを子事務所

<連絡先> 藤沢市藤沢2-3-2

TEL 0466-25-4776 FAX 25-4761

気候変動を考える まちかどトーク Meet-UP

「原発ゼロでエネルギーはどうまかなっていくのか？」と、大学生も参加

藤沢駅北口サンパール広場で気候変動を考えるまちかどトークをしました。通行中に質問を寄せてくれた大学生は真剣にどうしたら原発や石炭火力をなくせるか、変わるエネルギーとして木質バイオマスエネルギーの提案をしてくれま



した。2030年までに気候危機から地球を救う共産党の提案リーフが、「2030戦略」です。このリーフは若い方々も受け取ってくれました。



私は、なぎさを守る会でお世話になった川崎健さんから教えていただいた、「地球規模で考えながら、行動は足元から」を実践していこうと思います。また環境活動家の武本匡弘さん、社会起業家の小山田大和さんのとりくみは、気候危機を打開するための、今日の「気候危機トーク」の大きな力になっています。

なを子の花だより **パンジー** ウクライナカラーのパンジーを見つけました。



パンジーは、冬から春にかけて長い間、花が楽しめます。雪が積もっても負けない強さがあります。花言葉は「私を思って」「もの思い」。パンジーの名前はフランス語の Pensee (思考、思想) に由来するそうです。世界中の人たちが、ウクライナの平和を願って声をあげ、行動し、人道支援が始まっています。思想信条の違いを超えて広がる「ウクライナを思って」の大きな国際世論で戦争を終わらせ、一日も早くウクライナに平和を！

制服がきゅうくつに・・・。買い替えたいけど・・・

生活保護世帯に入学準備金の再支給（「しんぶん赤旗」日曜版1月30日掲載）



「入学準備金の範囲内で制服と通学カバンの買い替えの場合は再支給する。ケースワーカーに聞いてみてください」とありました。

県の担当課に聞いてみました。「最低生活費の認定」で「87900円の範囲内で就学期間中に学生服及び通学かばんの買い替えが必要であると保護の実施機関が認めた場合は、既定の範囲内で必要な額を認定して差しつかえない。」となっています。制服が成長に伴って使用に耐えない、損耗、災害等による消失などが例にあげられています。

入学から年数が立てば、子どもたちの成長は著しく、大きめの制服を購入しても窮屈になります。制服代は大きな負担です。是非この内容で再支給を利用してください。

市の教育委員会の担当に話しました。「生活保護利用者だけでなく就学援助制度を利用している世帯についても、成長期の中学生の制服に同じような入学準備金の再支給の仕組みが必要だと思います。」と。担当者は「準要保護世帯なのでそれはむずかしい。」とつれない返事でした。

私は市議の時、制服代の負担について値段が高額なため、軽減策を求めましたが、叶いませんでした。

誰もがお金の心配なく、学べることができる社会にするため、引き続き、がんばります。



3.11 あの日を忘れない！

東日本大震災と東京電力第一原発事故から11年目の3月11日。藤沢駅で、今も困難に直面している被災された方たちに心を寄せ、原発も核兵器もなくすために力を合わせよう！と呼びかける宣伝をしました。放射線量が高く、今もふるさとに戻れず、避難を余儀なくされている方たちは、家賃支援がなくなり、さらにコロナ禍で厳しい暮らしになっています。

政府は、被災者の命と暮らしを守る支援を強めるべきです。今後、大規模な災害から国民を守るために力を尽くすよう、政府に求めています。合わせて、ウクライナへの支援募金に取り組み、通行中の方々から、あたたかいお気持ちを寄せていただきました。